

「地盤構造物の長期性能評価とモニタリング技術の高度化に関する研究委員会」の委員公募

公益社団法人 地盤工学会関西支部

地盤工学会関西支部では、以下の趣旨に基づく研究委員会の委員の公募を行います。関連分野にご関心があり、委員会活動に意欲的に取り組んでいただける方のご応募をお待ちしています。

1. 名称：地盤構造物の長期性能評価とモニタリング技術の高度化に関する研究委員会

2. 設立趣旨：

人口減少およびインフラの老朽化を迎える中で、盛土、擁壁、斜面、トンネル、基礎構造などの地盤系構造物の健全性を長期的に維持・管理していくことが重要な社会課題になっています。本研究委員会では、これらの地盤構造物に関して、変形・破壊メカニズムの理解、ならびにその数値解析手法や評価技術の高度化を図るとともに、IoT・AI・リモートセンシング・CIM・デジタルツインなどの先端技術を活用したモニタリング・予測・維持管理手法について議論を深めます。

また、これまでに実施されてきた各種モニタリング・点検・維持管理に関するデータの掘り起こしやデジタル化、およびその利活用も重要な検討課題と捉え、過去の知見や蓄積データを最大限に活用した地盤インフラの健全性評価のあり方について多角的に検討します。当委員会では、行政・企業・大学・研究機関の幅広い関係者が参画し、学際的かつ実務的な視点から地盤構造物の長寿命化と災害レジリエンスの向上に資する知見の共有と発信を目指します。

3. 活動内容：

以下のようなトピックに関する最新情報の共有と実践を交えた研究活動を行う予定です。

- 1) 地盤構造物の長期的な劣化メカニズムや変形・破壊挙動の理解と数値解析手法（FEM／DEM／連成解析等）の活用
- 2) IoT・AI・リモートセンシング・LPWA・CIM・デジタルツイン等の先端技術によるモニタリングおよび維持管理
- 3) モニタリング・センシング・点検データの収集・過去の計測点検データのデジタル化と利活用（ビッグデータ／AI／データ同化等）
- 4) 災害対応・レジリエンス強化・インフラDX政策との連携

4. 委員構成：

委員は原則として公募とします。なお、委員長は安原 英明氏および菊本 統氏（ともに京都大学）を予定しています。

5. 活動期間：3年間を目途とします。

6. 申し込み方法：参加希望の方は、**2025年8月29日（金）**までに、1) 氏名、2) 所属と職名、3) 連絡先住所、4) 電話番号、e-mail アドレス、5) 会員番号(所属法人もしくは個人)、6) 当委員会で行いたい事項の要約（A4 用紙1ページ以内、様式自由）を添えて、下記までお申し込みください。なお、産学官のバランスに配慮して委員を選定する場合もありますのでご了承ください。

問い合わせ・申し込み先：

公益社団法人 地盤工学会関西支部事務局

〒540-0012 大阪市中央区谷町 1 -5-7 ストークスビル天満橋801

Tel: 06-6946-0393, Fax: 06-6946-0383, e-mail: office@jgskb.jp